

※履修にあたっての注意事項:本講義では、全員が下記の読書課題(英文文献を含む)を読了し、またレジメは各自が自分で全員分を作成した上で討議に参加することを前提としていません。したがって、特定の受講生を「あてて」(指定して)発言を促すようなことはせず、各自の自発的・積極的な発言を中心とする参加を期待しています。なお、単なる聴講等は認めておりません。

8月3日(月)		課題――各課題について、自分と講師の分を入れて参加者全員分のレジメ11部を講義時までに各自印字して準備しておくこと
文化生産論の基本的発想:素朴反映論を越えて(1)		※レジメは、基本的にひと続きの文章で書くこと。箇条書きのみのレジメは不可。適宜、箇条書きを使用することは可。
2	導入	佐藤郁哉「社会変動と文化現象」友枝・山田編『Do! ソシロジー』(有斐閣)所収 特に無し
3	文化のダイヤモンド入門	Wendy Griswold <i>Cultures and Societies in a Changing World</i> Ch.1+ Ch.2 次の2点に関するレジメをA4で1枚にまとめる――①該当箇所の要約、②コメント(特に自分自身のテーマとの関連)
4	【事前ディスカッション】受講生各自のテーマについての紹介 自分のテーマの概要を、以下の2点についてまとめたレジメをA4で1枚にまとめる――①テーマの概要、②実証方法論、③論点(受講者および講師に聞いてみたいこと等)	
8月4日(火)		
文化生産論の基本的発想:素朴反映論を越えて(2)+出版社の組織過程と出版業界の変貌		
2	反映論の検証	以下の2点についてA4で1～2枚のレジメにまとめる。 (1)左の①②の文献について、前日検討対象とした文献(<i>Cultures and Societies</i> ～)の議論をふまえて別々に論評する。特に、「文化のダイヤモンド図式」から見た場合、それぞれの文献がどのような問題点を抱えているか、という点を中心に論ずること。 (2)現在から50年後の世界にあなたが生きていたとして、③の2つの歌詞がともに映し出していると思われる世相と時代について①と同様の発想と方法によって気楽に(＝一種の「読書感想文」風に)論ずる。
3	文化生産論入門	Richard Peterson "Cultural Studies through the Production Perspective" in Diana Crane ed. <i>The Sociology of Culture</i> Blackwell 次の2点に関するレジメをA4で1枚にまとめる――①該当箇所の要約、②コメント(特に自分自身のテーマとの関連)
4	出版社の組織過程(1970～1980年代・米国)	Walter Powell "Getting into Print" Introduction, Chapter 3 次の2点に関するレジメをA4で1枚にまとめる――①英米の出版業界(特に学術出版)の変貌と日本における状況との相違点と類似点として考えられるもの、②英米の出版業界における変貌が編集者の仕事に対して与えたと思われる影響(以上の2点については、何らかの根拠にもとづく議論でも、あるいは単なる推測程度の議論でも構わない。自由に論じて欲しい)
5	出版業界の変貌(1980年代～・英米)	John Thompson, "Books in the Digital Age" Introduction, Chapter 4, Chapter 7
8月5日(水)		
研究事例＝『本を生み出す力』から		
2	問題設定	佐藤・芳賀・山田『本を生み出す力』序章+第I部(＝第1章) 左の文献の序章と第1章および付録1の記載内容を、「問題・方法・結果・考察」という、典型的なジャーナル論文の体裁として書き直す場合を想定して、①問題と②方法の2つに分けてA4で1枚のレジメにまとめる
3	事例研究	佐藤・芳賀・山田『本を生み出す力』第II部 第II部で事例研究の対象となっている4社を、受講生にそれぞれ割り当てる。各自、それぞれの事例について、その概要、疑問点等についてレジメにまとめて発表する。(当然、全員が全ての章を読んでくる)
4	概念的枠組み	佐藤・芳賀・山田『本を生み出す力』第III部 次の2点についてレジメ1枚にまとめる――①自分が学術書ないし準学術書(新書等も含む)を刊行したいと思った場合に、出版社・編集者との交渉において特にどのような点に特に注意すべきか、②自分が学術出版社(新書等の版元である総合出版社を含む)の編集者であった場合に、著者に対してどのような要求をすべきか(※この課題については、特に自由に論じて構わない)
8月6日(木)		
文化生産研究の方法論		
2	制度分析	①佐藤・芳賀・山田『本を生み出す力』第IV部 ②コラム 教養新書からファスト新書へ ③書評2点+他2点 ④『リストラう!』 『本を生み出す力』第9章の議論を踏まえ、また、②～④の資料をも参考にした上で、「ファスト新書」に近い性格を持つとあなたが考える新書を1点取り上げ、次の3点から自由に論じなさい――①その新書の概要、②なぜ、「ファスト新書」的と考えるか、③出版社の編集者ないし営業担当者が新書の企画時に想定していたと思われる読者層の特徴。
3	研究方法について考える	佐藤・芳賀・山田『本を生み出す力』付録1 以下の点について、レジメを1枚にまとめる――①3日間の講義および講義時のディスカッションを経て、8月3日に発表した、自分の研究テーマについての見方がどのような点で変わったか、あるいは変わらなかったか、②変わった/変わらなかったとしたら、それは何故か?、③付録1からは、どのような示唆があったか、無かったか。
4	【事後ディスカッション】まとめのディスカッション:受講生各自のテーマについての再考＝講義を受けてから	